

方針とマネジメント

基本的な考え方

日本製紙グループは、顧客ニーズへの確に対応するとともに、持続可能な社会の構築に寄与する製品・サービスを提供することで、企業の社会的価値と経済的価値の向上を図り、企業グループ理念(→P.6)の実現を目指します。

また、当社グループは紙、フィルム、ヘルスケア製品、ケミカル製品や木材・建材など多様な事業を営んでおり、生活に不可欠なそれらの製品を、安全性・品質を確保した上で安定的に供給することが、上記の取り組みの前提であり、お客さまに関わる責任の基本と考えています。平常時と緊急時の両面で安定供給を確保するための体制を構築しています。

製品安全マネジメント推進体制

日本製紙グループは、「製品安全に関する理念と基本方針」に基づき、お客さまの信頼に継続して応えられる品質を追求しています。

製品安全に関する理念と基本方針

(2004年10月1日制定、2014年8月1日改訂)

■ 理念

私たちは、設計・製造・供給・廃棄の全ライフサイクルを通じて安全性を追求し、社会から信頼される製品・サービスを提供します。

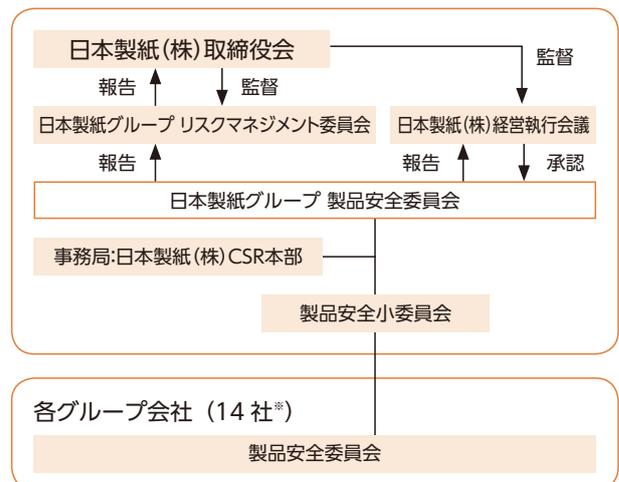
■ 基本方針

1. 安全な製品・サービスを提供し、お客さまからの継続した信頼に応えます。
2. 製品・サービスの安全を確保するために関係法規、関係基準を遵守します。国内法規のみならず、グローバルな視点からの安全性を追求します。
3. 製品の安全性・機能・正しい使用方法に関する的確な情報を、お客さまに提供します。
4. 製品・サービスに関する安全管理体制を確立し、グループの全従業員に製品安全への意識を徹底します。

日本製紙(株)は、当社の取締役会の監督のもと、リスクマネジメント委員会(→P.25)を設置し、製品安全を含むグループ全体のリスクマネジメントを推進しています。日本製紙(株)CSR本部長を委員長とする「日本製紙グループ製品安全委員会」が、グループ全体の活動方針や施策などの重要事項を審議・決定するなど、グループの製品安全に関わる活動を統括し、リスクマネジメント委員会へ報告しています。

さらに、日本製紙グループ製品安全委員会の下に「製品安全小委員会」を置き、各社の活動状況を把握・管理するとともに、各社間で情報・意見交換した上で、懸念事項がある場合は対応策を協議し、製品安全委員会へ報告・答申しています。なお、昨年度より海外のグループ会社も小委員会に追加しました。また各グループ会社にも「製品安全委員会」もしくは類似の組織を設置して、それぞれの製品安全活動を推進しています。

製品安全マネジメント体制



※日本製紙(株)、日本製紙クレシア(株)、日本製紙パピリア(株)、日本製紙木材(株)、大昭和ユニボード(株)、日本製袋(株)、共栄製袋(株)、日本紙通商(株)、日本製紙総合開発(株)、オパール、十條サーマル、サイアム・ニッポン・インダストリアル・ペーパー、日本ダイナウェーブパッケージング、秋田十條化成(株)(2020年6月末現在)

お客さまのニーズの把握

日本製紙グループでは、日常の営業活動から技術スタッフによる品質パトロールまで、幅広くお客さまのニーズを把握できるよう積極的にコミュニケーションを図っています。また、お客さまから原材料である木材の種類・原産国やその合法性に関する問い合わせが多くなっており、自社の取り組みと第三者による評価(→P.30-32)で説明しています。

CSR調達*を進めるお客様に対しては、当社のCSRに対する取り組みにつきアンケートなどで回答しています。加えてCSR調達に関する情報開示のグローバルなプラットフォームにもサプライヤーとして登録しています。

そのほかにも、お客さまによる工場見学や査察を積極的に受け入れ、生産現場を見学いただくことで、当社グループの取り組みについてご理解いただいています。

※企業が原材料を調達する際に、サプライヤーに対し環境や社会への取り組みを求めることで、サプライチェーン全体で社会的責任を果たそうとする活動

事例 グローバルなCSR調達のプラットフォームに登録

日本製紙グループはCSR調達のグローバルな情報プラットフォームであるEcovadis*にサプライヤーとして登録しています。Ecovadisでは当社グループのCSRの取り組みが上位25%の企業として評価され、シルバーメダルを獲得しています。また、日本製紙リキッドパッケージプロダクト(株)江川事業所が2019年度よりSedex*に登録、CSR評価を審査する[SMETA監査]を受けています。



※Ecovadis(フランスの企業)、Sedex(イギリスのNGO)。どちらも企業のCSR調達を推進する目的で設立されたグローバルな情報プラットフォーム

事例 日本製紙(株)紙パック営業本部

お客さまである乳業・飲料会社の充填機ご担当者を対象とした技術講習会(紙パックスクール)及び紙パック生産工場見学会を開催し、紙パック用充填機を適切に取り扱うための情報を提供するとともに、ご意見・ご要望に耳を傾け、より良い製品づくりに努めています。



講義風景



充填機メンテナンス実習

事例 日本製紙クレシア(株)

お客様相談係では、お寄せいただくご意見・ご質問を、製品の更なる開発・改善に活かせる体制に整えています。日本製紙クレシア(株)は、お客さま目線に立ち、既成概念にとらわれることなく、お客さまからのご要望はもちろん、様々な視点から潜在的なニーズを掘り起こし、常に製品の使いやすさの追求、品質や付加価値の向上に力を注いでいます。

新製品開発推進体制

日本製紙グループでは、事業構造転換を加速するための「新製品開発推進委員会」を設置しています。同委員会の下に置いた新製品開発推進チームが研究テーマを発掘し、3カ月ごとに開催する委員会で審議。採用を決めたテーマに人員と予算を付けてプロジェクトを発足します。委員会は日本製紙(株)企画本部長を委員長とし、当社の社長をはじめとする経営執行会議メンバーで構成。テーマに応じて関係会社社長や関係部門長が出席することで、事業化へのスピードを速めています。

新製品開発推進体制

